

評価事例 5

単 元 名	第5学年 Unit5 Where is the post office?
単 元 の 目 標	自分たちの夢の町について知ってもらったり、相手の夢の町について知ったりするために、施設への行き方を尋ねたり、それに応じて答えたりして伝え合うことができる。 「話すこと [やり取り] ア」
言 語 活 動	一人一人が欲しい施設を考え、グループで1枚の「夢の町マップ」を作る。互いのグループの夢の町について知るために、1対1でやり取りを行う。欲しい施設は何か、その場所はどこかを尋ねたり、答えたりする。やり取りをする際は、施設の場所を見て分からないようにするため、「夢の町マップ」ではなく、白地図を使って案内する。

評価の進め方

児童を4～5人のグループに分け、グループ同士でそれぞれのグループが作った「夢の町マップ」を案内する。道案内をする際は、違うグループの児童がペアになり、1対1でやり取りを行う。教員とALTはやり取りの様子を見ながら分担して評価をする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 建物や位置などを表す語句や Where is ~? Go straight for ~ block(s). Turn left/right. It's by/in/on/under/~. You can see it on your left/right. の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 夢の町について、上記の語句や表現等を用いて、施設への行き方を尋ねたり、それに応じて答えたりする技能を身に付けている。</p>	<p>自分たちの夢の町について知ってもらったり、相手の夢の町について知ったりするために、施設への行き方を尋ねたり、それに応じて答えたりして伝え合っている。</p>	<p>自分たちの夢の町について知ってもらったり、相手の夢の町について知ったりするために、施設への行き方を尋ねたり、それに応じて答えたりして伝え合おうとしている。</p>

思考・判断・表現の判断基準

A：十分満足できる状況	「B」に加えて、既習の語句や表現を用いて、場面に応じたやり取りをしている。
B：おおむね満足できる状況	相手の欲しい施設への行き方を尋ね、相手の説明を聞いて理解したり、自分の欲しい施設への行き方を説明して答えたりしている。
C：努力を要する状況	「B」を満たしていない。

評価例 (S = 児童, T = 教員)

Aとなる例	Bとなる例	Cとなる例
<p>S1: What do you want for your town? S2: I want a library. S1: Where is the library? S2: Go straight for three blocks. Turn left. You can see it on your right. OK?① S1: <u>Three blocks and turn left.</u>② Here? S2: Yes, that's right. S1: <u>Do you like books?</u>③ S2: Yes, I do. I like manga.④</p>	<p>S1: What do you want for your town? S2: I want a library. S1: Where is the library? S2: Go straight for three blocks. Turn left. You can see it on your right. S1: Here? S2: Yes, that's right.</p>	<p>ア S1: What do you want? S2: I want a library. S1: Where is the library? S2: Go straight for three blocks. Turn left. You can see it on your right. S1: まっすぐ行って、右?左?</p> <p>イ S1: What do you want? S2: I want a library. S1: Where is the library? S2: Go straight...and ...</p>
<p>理由 S1は、相手の欲しい施設への行き方を尋ね、相手の説明を聞いてその場所を理解しているだけでなく、②Three blocks and turn left.と相手の言葉を繰り返したり、③Do you like books?と尋ねたりして、場面に応じたやり取りをしている。 S2は、自分の欲しい施設への行き方を答えているだけでなく、①OK?と相手の理解を確かめたり、④Yes, I do. I like manga.と答えたりして、場面に応じたやり取りをしている。</p>	<p>理由 S1は、相手の欲しい施設への行き方を尋ね、相手の説明を聞いてその場所を理解している。 S2は、自分の欲しい施設への行き方を説明して答えている。</p>	<p>理由 ア S1は、相手の説明を聞いても行き方が分からないため、相手の欲しい施設にたどり着けない。 イ S2は、自分の欲しい施設への行き方を説明できないため、道案内することができない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「C：努力を要する状況」と判断した児童に対する指導や支援については、「指導・支援アイデア集」を参照</p> </div>

指導のポイント

・グループごとに自分たちが欲しい施設を並べた「夢の町マップ」を作成することで、学級の児童の間にインフォメーション・ギャップ (情報の差) を作り、道案内することへの意欲を高める。